

チーム体制・チーム支援・チーム連携のあり方

前号では、「チーム〇〇」と「同調圧力」に言及しましたが、チーム体制自体は医療や福祉において必要不可欠なものです。ここではどんな形態があるかを言及していきます。

●異種・異質連携

代表的なものには、産学連携があります。

●チーム医療

医療に従事する多種多様な医療従事者が、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することです。(1)

●多職種連携（IPW）

異なる専門職からなるチームのメンバー、あるいは異なる機関・施設が、サービス利用者（患者・家族）の利益を第一に、総合的・包括的な保健医療福祉ケアを提供するために、相互尊重、互惠関係による協働実践を行うこと、またその方法・過程」です。(2)

医師，看護職，リハビリテーション専門職，医療ソーシャルワーカー等の医療従事者に加え、ケアマネジャー、地域包括支援センター、社会福祉機関職員、介護保険施設職員、民生委員、NPO法人職員、ボランティア団体メンバー、自治会などの地域支援者等を含む場合もあります。

多職種の間では意見や見解の相違もよくみられます。他者の異なる価値観や考え方を理解する機会でもあります。また、他職種の理解を得られるように説明していくことも肝要です。多職種間における見解の相違を互いに確認・共有し、チームとして解決のための方策を見い出していきます。即ち専門性を発揮しながら他職種と協働していくことです。多職種連携（IPW）を進めるには、多職種連携教育（IPE）が必要です。

前号でも述べましたが、チームにはまず他者（相手）理解が大事です。相違を認める・ズレを埋めていく・共有する・再構築する・分担や協力する…そういった過程を繰り返して、チームが成熟していきます。高度化された現代の社会においては、分業化が必須です。トップがワンチームを叫んで一致団結する時代ではないようです。

参考資料

・ piguno journal 「真のチーム医療とは？ 多職種連携（IPW）と、多職種連携教育（IPE）」

<https://journal.epigno.jp/interprofessional-work>

(1) チーム医療の推進についてーチーム医療の推進に関する検討会報告書，厚生労働省，2010，

<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>,

(2) 公益社団法人 日本看護協会 多職種連携と倫理

<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/basic/problem/tashokushu.html>,